

大手柄は最大の「汚点」だった

# 県警が 密輸をさせた!



## 史上最大のヤラセ拳銃押収

警察庁は8月5日、『平成16年上半期の薬物・銃器情勢』を公表した。

これによれば、へけん銃の押収丁数は、平成7年に1880丁を押収して以降漸減傾向が続いている。本年上半期における押収丁数は339丁で昨年同期(392丁)より53丁(13・5%)減少したという。一方、銃器使用事件の認知件数は280件で、上半期としては平成8年以降最多となった昨年同期(221件)より59件(26・7%)増加しているという。

ところが、この文書は、銃器使用事件が大幅に増えているのに、拳銃の押収丁数はピーク時の半数以下になっている理由についてはいっさい説明していない。なぜなのか? 警察庁が説明できないワケはハッキリしている。平成7年(96年)当時、警察庁は「暴力団と取引してでも、拳銃の押収丁数を増やせ」と全国の警察本部に指示しており、そのため押収丁数が水増しされていたにすぎないからだ。

▲「タナカ」なる偽名を使って拳銃・大麻の密輸を取り仕切った兵庫県警の小林治警部。過去、暴力団との癒着が問題となって処分もされたが、現在、姫路署刑事第一課長にまで出世している

この年の4月、警察大学校で講習を受けた今村邦男・元愛媛県警生活保安課課長補佐(現・松山市議会議員)は、こう証言する。

「講師は『遠くのシャブ(覚醒剤)より近くのチャカ(拳銃)』と、われわれに指導していました。『暴力団の薬物事犯を見逃しても、その見返りに拳銃を提供してもらえばいい』という意味です。当時、『匿名の通報があったコインロッカーを調べたところ、中から拳銃が見つかった』などという押収劇が全国で相次ぎましたが、これらはすべてヤラセ。警察と暴力団

との取引による出来レースだったんです」  
警察史上最大のヤラセ拳銃押収は、そんな状況下で行われた。『警察白書・平成7年版』には特筆すべき成果として、次のように掲載されている事件だ。

(平成6年)9月、タイ人船員(28)が、日本にけん銃を運ばば金になると思い、けん銃61丁と実包254個を麻袋に入れて自己の乗船するタイ船籍の貨物船の中に隠して、タイから密輸したところを直ちに検挙(兵庫)

密輸入事件に限れば、平成6年に押収された拳銃は全国で64丁。うち61丁がこの事件で押収された。当時、新聞やテレビはこれを「兵庫県警の

## 取材：文／寺澤有津田哲也

「タイから密輸された拳銃61丁を水際で押収」。警察庁が自画自賛し、マスコミが大手柄だともてはやした空前の拳銃大量押収劇は、兵庫県警が組織ぐるみで仕組んだ「ヤラセ」だった。しかも、この「快拳」をデッチ上げるために、兵庫県警の警察官らは、末端価格約1億円の乾燥大麻20kgの密輸にまで手を染めていたのだ。

# 兵庫

# 拳銃&大麻

驚愕スクープ  
告白



大手柄」として報じている。が、この事件は警察と暴力団との癒着の産物に他ならなかった。それも「稲葉事件」(稲葉圭昭・元北海道警警部が暴力団と癒着し、拳銃の押収丁数を稼ぐ一方、拳銃や薬物、盗難車の密輸、売買などにも手を染めていたというもの。昨年、稲葉元警部は懲役9年の刑が確定し、服役中)以上の悪質さの。

\* \* \*  
94(平成6)年9月10日、タイ船籍の貨物船・ハイスーン号の乗組員、サデュット・

グリーンオップ氏(当時28歳)は、大阪府泉大津市の堺泉北港で、拳銃61丁と実包(弾丸)254個を所持していたとして銃刀法違反などの現行犯で

## 密輸の主犯は現職警察官

サデュット氏は起訴され、その後の裁判で、「私は『タナカ』『フジモト』と名乗る二人の日本人から頼まれて拳銃を密輸しただけだ。主犯はこの二人だ」と主張した。裁判所も「タナカ」「フジモト」が主犯であることは認めたが、二人に捜査の手が及ぶことはなく、96年11月25日、最高裁で懲役10年の刑が確定、サデュット氏は服役している。実は、タナカは兵庫県警の小林治警部(54歳、現・姫路署刑事第1課長)、フジモトは捜査関係者の間では有名な、タイを拠点とする密売人だった。大阪府警の現職警察官が言う。「フジモトの本名は佐輔正幸(53歳)。兵庫

逮捕された。当時の報道によれば、「匿名の密告電話があり、兵庫県警は100名近い捜査員で張り込んでいた」という。

犯罪を見逃してもらおうかわりに捜査協力する人物)や。拳銃61丁押収や? 笑わせたらアカン。アレは兵庫県警と佐輔が組んで、サデュットに拳銃を密輸させたんや。サデュットだけがハマられて逮捕されただけの話やで。誰が「匿名の密告電話」ぐらいで、100人近い捜査員を動かせるかいな」

県警の協力者(自分の

事件の真相は闇に葬られるはずだった。ところが97年8月16日、佐輔氏が大阪府警に大麻取締法違反などの容疑で逮捕されたことで、事態は動いた。佐輔氏は翌98年11月12日、大阪地裁堺支部で懲役13年の判決を受け、控訴する。そして、第2審の大阪高裁で、警察に対する不信任感から「自分は兵庫県警の協力者だった」と暴露したのだ。以下、公判の被告人質問の

▲小林警部らの依頼で2度の密輸を請け負い、日本で懲役刑に服したタイ人、サデュット・グリーンオップ氏は、ついに重い口を開いた(写真上)。ズラリと並んだ61丁の押収拳銃。兵庫県警が誇らしげにマスコミに公開したこの成果は、実は「ヤラセ」の賜物だった